



2014 文部科学大臣杯 JAPANKART CUP with HDXシリーズ

開催コース/筑波サーキット (茨城県)
主催/日本スーパーカート協会
開催日/2014年3月23日 天候/晴れ
路面状況/ドライ
Report&Photo/月刊 JAPAN KART

今年で5年目に突入したJKカップ。今季の新しい試みとしては、併催で行われていたHDXシリーズが全クラスで参戦可能となったほか、カートコース仕様のスプリントカートでも参加できるSLクラスが新設された。

開幕戦の筑波大会には20チームがエントリー。リニューアルされたHDXにはSLを除く全クラスがエントリーできるとあって、半数以上のチームがHDXでの参加となっていた。

当日はそれまでの寒さがようやく一段落したようで、春めいたほかほか陽気に恵まれる絶好のカート日和。最高のコンディション下で、正午前の11時50分にスタートが切られる。

60分耐久レースとなるJKカップでは、規定数以上のピットインが義務づけられるため、どのタイミングでピットに入るかが結構、重要なポイントだ。

今回、オープニングラップ後という早々のピットインを敢行したチームがあった。これは混雑する時間帯を外すのが目的だという。

その後、レースは大きなトラブルもなく、無事に1時間が終了。ファーストチェッカーを受けたのはオープニングラップでのピットイン作戦を行ったガレージCブルーエンジェルス。53周を走りきり、2位の隼 with JMPに32秒差をつけての総合優勝に輝く。総合3位にはDot Seven & JMPが入った。



ホームストレート上で行われた仮表彰式は総合6位までが登壇。総合優勝はガレージCブルーエンジェルス、2位が隼 with JMP、3位はHDXカートを使用するDot Seven & JMPとなる



今回初レースという15歳ドライバー那未選手。4月から華の女子高生という若手ドライバーだ



KTクラスに参戦する久家選手はベテランドライバー。JKカップは今年で2年目になる



練習でクラッシュに巻き込まれ、今回は散々だったというT.SYOTA。次戦でリベンジを誓う



HDX-KT100のエース安田稜選手。練習から調子が良かったそうで、見事クラス優勝に輝く



WAKO'S スーパーカートカップ第1戦 筑波選手権シリーズ第1戦

開催コース/筑波サーキット (茨城県)
主催/日本スーパーカート協会
開催日/3月23日 天候/曇れ
路面状況/ドライ
Report&Photo/月刊JAPAN KART

いよいよ2014シーズンが幕を開けた。今年のWako'sカートカップは6戦を東日本のサーキットで行い、最終戦は岡山国際サーキットで日本一決定戦と共に開催される予定だ。

シリーズを占う上で大事な初戦。まずSK1クラスでは序盤、青いカウルが象徴的なカシマR勢がレースを引っ張る。しかし、やがては大王こと吉野義弘が抜け出していき、終わってみれば2位の小野間悦久に3秒差での独走優勝。3位は松崎春雄となる。

SK4では河村孝と桜井晋吾の一騎打ちとなっていた。桜井が先頭に立ち、河村を引き離しにかかるが、中盤を過ぎたころにオイルが噴き出すマシントラブルに見舞われペースダウン。この隙を河村が逃すはずもなく、逆転に成功するとファーストチェッカーを受けた。

混戦が続くSK2では川島浩、藤木章二、渡辺浩之の三つ巴の戦いへ。終盤、渡辺が前2台をかわして逆転に成功すると、そのままチェッカー。渡辺、川島が連なってゴールするというFクラモチのワンツーフィニッシュとなった。



大王らしい素晴らしいスピードを発揮しての圧勝劇。SK1で開幕戦に輝いた吉野義弘



今季はSK1からSK4へとクラスチェンジした河村孝。強敵、桜井晋吾からの逆転に成功する



いつだって混戦となるSK2。実力者同士のバトルを制したのは#55の渡辺浩之だ



SK1表彰式。中央に吉野を挟み左が2位の小野間、そして奥に3位の松崎



SK4では紅一点の実紅が3位に入賞する。実紅は3/2の岡山国際シリーズで優勝を収めている



SK2ワンツーフィニッシュを果たしたファクトリークラモチの渡辺(右)と川島の最強タッグ